

撮り下ろし写真で構成した、こだわりの図鑑

小さくて携帯しやすいのに、内容が濃く頼りになる。文二総合出版のハンドブックは、あらゆるフィールドの自然ウォッチャーにとって、まさに理想的な1冊だ。好調な売れ行きを博している同シリーズに、266種のエビが収録された『サンゴ礁のエビハンドブック』が新たにラインアップされた。著者は、弊誌でも活躍するカメラマンの峯水亮氏だ。

制作がスタートしたのは、同出版社で2010年に発行した峯水氏の著書『ポケット図鑑 日本の海水魚466』の編集者から「ハンドブックシリーズでエビ・カニをできないか」と提案されたのがきっかけだった。エビ・カニの図鑑というと、峯水氏の著書であり、同じ文二総合出版から2000年にリリースされた『海の甲殻類』が有名だが、『海の甲殻

類』がA5判なのに対して、今回の図鑑は一回り以上小さい新書版。とてもじゃないが、『海の甲殻類』のように膨大な種類を、1つの小さなハンドブックに収めることなどできない。エビとカニを分けるのはもちろん、さらにテーマを深く掘り下げる必要があった。峯水氏はこう語る。

「『海の甲殻類』を出した後の10年で、新しい種類が記載されたり、発見されたりとサンゴ礁のエビはかなり増えました。今まで1種類とされていた種が、細分化されて4〜5種類に分かれたりもした。だから、これまで本で発表されていぬ種類を含めて、サンゴ礁域というテーマでまとめられたらと考えたんです」

本の方向性が決まると同時に、制作に当たって峯水氏が心に決めたことが1つあった。それは、過去に発表されたものではなく、撮り下ろしの写真を使

気軽に携帯できるコンパクトサイズながら、内容は本格的という便利さで、あらゆるフィールドで人気を集めている文二総合出版のハンドブックシリーズ。そこに、新たに追加されたのが、待望の『サンゴ礁のエビハンドブック』だ。著者であるカメラマンの峯水亮氏に、その制作秘話を聞いた。

人気のハンドブックシリーズに『サンゴ礁のエビ』が仲間入り！

用すること。撮り下ろしとひと口に言っても、266種のエビを撮影するのはもちろん容易なことではない。

「最初に掲載したい種類をリストアップして、それを片っ端から撮影して潰していくというやり方。一度に2〜3週間ずつの取材を行って、何か所も巡りました。まるで合宿です」

ときには、1種類のエビを撮るためだけに合宿を行ったこともあったという。

「屋久島へは、2種類のエビだけを撮りに出かけました。和名は付いていませんが、アクアリストの間で通称ヒノマルテツボウエビと呼ばれている種類などです。その名のとおり、身体の横に目の丸のような大きな斑紋があるのですが、岩陰に隠れてなかなか出てきてくれず、結局、屋久島には1週間滞在。粘って粘つてようやくそのチャンスが到来したときは、うれしかったですね」

図鑑写真というのは、特殊だ。掲載できる写真は、基本的に1種類につき1点。その1点のみで生き物の特徴を伝えられるよう、とにもかくにも全身が写っていることが前提となる。そのため、ただ見つけて撮る、というのでは済まない。見つけることだけでもじゅうぶん大変なのに、見つけてからも辛

抱が必要な、じつに苦勞の多い撮影なのである。こうした根気のいる撮影には、現地ガイドやダイバーの協力が必須だという。

「地元の海に精通している人に案内してもらおうほうが取材の効率がいい。それで、現地のガイドさんやエビ好きダイバーのかたと、水中で手分けをして探す。それでも見つからないときもあります。今回もたくさんの方のご協力の下、撮影することができました」

解説文の読み応えも満点のエビ図鑑の新バイブル

今回の図鑑は解説文も峯水氏本人が執筆している。こちらも、撮影の苦労に負けず劣らずのこだわりが凝縮されたものだ。参考にしたのは、なんと160にも及ぶ国内外の文献。40年以上前に発行された古本から英語の文献まで徹底的に目を通し、さらに各分野の学者やガイドなどの情報、自身の撮影実績も踏まえて総合的に分析した。説得力のある解説文に仕上がっている。「小さな本ですが、サンゴ礁域のエビとしては、現時点ではこれ以上できないだろうというほどの内容だと自負し

ています。くくりとしては、日本を中心とした西太平洋域のサンゴ礁なので、フィリピン、マレーシア、インドネシアなど東南アジアのダイビングポイントでも使えるはずなので、ぜひいろんなダイバーに手にとってもらいたいですね」

「この図鑑の新たなバイブルになること間違いない。気軽にバッグに入れて、海へ出かけたがたい。」

共生種については、ぱっと見ただけで宿主がわかるようなアイコンを掲載している



New Book Release

ポケット図鑑
サンゴ礁のエビハンドブック

近日発売!

ポケット図鑑
サンゴ礁のエビハンドブック

ダイバーが観察しやすい水深30mくらいまでを中心に、サンゴ礁域で観察することのできるエビ266種を取録したエビ図鑑。掲載写真はすべて生息環境下で撮影された。貴重な生息環境や共生関係、外見の特徴、撮影ポイント、水深、体長などの詳細なデータでエビが識別できる、ダイバー必携の一冊。

- 著／峯水亮
- 新書判／144ページ／1,680円
- 文二総合出版
- 東京都新宿区西五軒町2-5
- Tel.03-3235-7341
- www.bun-ichi.co.jp

月刊ダイバー通信販売 Diver's Store でも販売しております。



Present!

「ポケット図鑑 サンゴ礁のエビハンドブック」の発行を記念して、5名様にプレゼント! (詳細は178ページへ)



Profile>>
峯水 亮 (みねみず・りょう)
1970年、大阪府生まれ。ダイビングインストラクターを経て、1997年より水中写真家として独立。現在は、自然関係の書籍やダイビング雑誌、映像撮影など多方面で活躍。著書に「海の甲殻類」、「ポケット図鑑 日本の海水魚466」(ともに文二総合出版)など。

New Book Release

ポケット図鑑
サンゴ礁のエビハンドブック

Series>>



タナゴハンドブック
1,470円



海辺で拾える貝
ハンドブック
1,470円



海辺の漂着物
ハンドブック
1,260円



ポケット図鑑
日本の海水魚466
1,050円



ポケット図鑑
日本の淡水魚258
1,050円



海の甲殻類
3,990円



ポケットサイズの本ながら、できるだけ写真を大きく見せたいとレイアウトには苦心したという